

## 平成 27 年度第 2 回モニター会議議事録まとめ

開催日時	平成 28 年 3 月 26 日(日) 午後 2 時～4 時
出席者	石井亜樹、近藤均、都築徳紀、堀尾佳広、事業係長生田、事業係主事寺嶋、事業係主事笹山
事務局	<p>モニター会議での提案を受けた事項の進捗状況の報告</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・情報誌「ハレとケ」第 2 号印刷中</li></ul> <p>今回はモニターの記事が掲載された (事業後のレポート、公演の意義を確かめるインタビュー記事)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・文化の家独自のホームページが完成</li></ul> <p>事業を写真入りで伝えることができるように</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・広報面/情報宣伝活動について</li></ul> <p>情報系創造スタッフの活躍</p>
モニター1	<p>下半期事業の振り返りについて</p> <p>「JAZZ長久手」インタビューについて、出演者の話が印象的だった。文化の家のピアノスタインウェイ、ホールの良さの話や、時代・型にはまらないジャズを作っていく話がおもしろかった。</p>
事務局	<p>YouTube を活かして、音楽への興味をひき出せるというアイデアが印象的だった。簡単に聴き比べができたり、手軽に音楽を楽しむための良い手段・環境であるとおっしゃっていた。文化の家としては、そういった音楽に興味をもつためのきっかけやポイントを提供していきたい。</p>
モニター2	<p>「劇闘」内容はすごくよかったが、身内の客が多かったように思う。もっと他の地域の人も呼べたらよいのでは。</p>
事務局	<p>文化の家が気をつけているのは受け身・身内のイベントにならないこと。アーティスト自身もその自覚をもち、発信力を高めていく必要がある。</p> <p>いろいろなところに文化はあるべき。福祉の家で実施した「温泉カルテット」は4分の1ほどの来場者が初めてカルテットを聴くということだった。こういう取り組みを続けて、より広いお客様に楽しんでもらいたい。</p>
モニター3	<p>文化の地産地消こそ大切である。あえて外の人を呼ばなくても、地元で活躍するたくさんのアーティストを地元の市民が楽しむ仕組みをつくれればよい。</p>

- モニター4 演劇公演「杏仁豆腐」を観た。今まで音楽に偏りがちだったが、演劇のモニターにもチャレンジしてみた。役者のかけあいや表情といったライブ感がとてもよかった。また観たい。
- モニター5 文化の家の事業には古典芸能が少ない。子ども向け等で実施してほしい。
- モニター6 根付くまでは集客に苦勞するだろうが、それを続けることができるのが文化の家ではないか。興業では決してできないことを提供できる。
- 今後について
- モニター1 他のモニターの感覚を知るためにも、モニター用紙を見ることはできないか。
- 事務局 共有していくのがよい。今後取り組みたいと思う。
- モニター2 モニターを企画や事業だけでなく、文化の家全体を対象としてはどうか。
- 事務局 そうしていただけるとなお良い。ハードの面等についても、ご意見いただければ。
- モニター3 休館中のピンチをチャンスに！改修後のオープニングが楽しみだ。
- 事務局 今後もたくさんの人にモニターに参加してもらいたい。インセンティブを考えていきたい。